

目的別日本語教育におけるオノマトペ表現の重要性

西村由美 (関西学院大学)

竹内和広 (大阪電気通信大学)

E-mail: marikahimemiya@kwansei.ac.jp

takeuchi@isc.osakac.ac.jp

1. はじめに

就業や研修のために来日した外国人は、職業現場で、高度かつ専門的な日本語習得を短期間で達成することが求められる。日本社会においてオノマトペは日常生活から職業現場まで、広い範囲で使用されるにも関わらず、従来の日本語教育ではあまり扱われない。本稿ではこのような背景に対して、日本語教育の立場からオノマトペ表現の分野依存性に関して検討を行いたい。

2. 日本語教育におけるオノマトペ

目的別日本語教育においては、分野特化的、実用的であることを前提に、学習者にとって効果的なオノマトペ指導法について検討する必要がある。実際、筆頭著者は介護士候補者として来日した外国人に対して日本語教育を行ってきた経験を持つが、候補者からも「オノマトペも早く学びたい」という声があがっている。

一般日本語教育では、どのオノマトペを優先的に扱うべきかを検討した研究がある。玉村(1989)、三上(2007)はそれぞれ、複数の教科書や辞書、言語資料を調査し、オノマトペの基本語彙選定を試みている。中でも、三上の調査は幅広く、雑誌、映画やテレビのシナリオなども対象にしており、このデータを基に、オノマトペに特化した学習サイトが国立国語研究所により作成されている(「日本語を楽しもう～擬音語・擬態語って?」<http://dbms.ninjal.ac.jp/nknet/Onomatope/>)。

目的別日本語教育においては、石井(2010)が語彙教材の開発のための調査で、オノマトペについて言及している。介護福祉士候補者に対するインタビュー調査の結果、学習が不足している語彙として指摘されたのは、様子、症状、事故関連、そしてオノマトペである。また、医療・介護分野では、オノマトペの必要性が認識されており、国際交流基金が作成した学習支援サイトには、「擬音語・擬態語」として141語が取り扱われている(「日本語でケアナビ」<http://www.nihongodecarenavi.jp>)。

3. データ

語の収集対象をインターネット上の相談や商品評価に求めたのは、発話に近い形で個別の体験が表出されているからである。体験を語る際に、オノマトペ表現はよく使われる(西村2009)。ウェブサイトは、感情や身体感覚に関わることを基準として、介護関連、健康食品、日用品、等とした。また、特に皮膚感覚について多くの事例が集まることを予測し、化粧品も加えた。先に述べた

2つの学習サイトで扱われている184種類のオノマトペを含む文とともに、語形を手掛かりとして、他のオノマトペを含むものも収集した。語形の候補は奥村・齊藤・奥村(2003)を参考として定めた。以下に対象としたウェブサイトの詳細と、オノマトペ収集候補の語形の一覧表を示す。

①介護110番 <http://www.kaigo110.co.jp/>②ケンコミ <http://www.kenkomi.net/index.html>

③Amazon.co.jp

http://www.amazon.co.jp/b/ref=sd_allcat_sahb?node=160384011

④楽天 みんなのレビュー

<http://review.rakuten.co.jp/search/-/100938/>⑤@cosme クチコミ <http://www.cosme.net/>

表1. オノマトペ候補の語形

語形	例
XYXY	がたがた
XQYり	がっかり
XNYり	すんなり
XYQと	ぱくっと
XQYN	どっさり
XYりと	ひらりと
XYNと	すんと
XYりXYり	ゆらりゆらり
XYNXYN	ぐるんぐるん
X-Qと	そーっと

文例の収集は以下の順で行った。1.Web から対象となる文書を収集。2.収集した文書集合から必要な文を抽出。文書を集める際に、クローラーと呼ばれる Web を自動巡回・収集するプログラムを用いた。クローラーは対象 Web サイトの構造によってチューニングした。オノマトペ以外の語も抽出されるため、それらは人手で削除した。

学習支援サイトで扱われている184語を収集したものを「A」、オノマトペ候補から収集したものを「B」とした。以下の表2に総数を示す。

日本語能力試験出題基準の語彙リストでは、「しっとり」「さらさら」などの身体感覚を表現する語にはないが、これらの表現が当該分野では重要であることがわかる。また、教科書では、XYXY型の変形である「さらさら」「ふわふわ」が出現することがあっても、表Bの上位にある「さらっ」「ふんわり」のようなバリエーションが扱われることはあまりない。同じ語基を持つ語を、学習者にどう提示するかも検討すべき課題の一つである。

表3A, Bに、各サイトから頻度の高い上位10種を示す。

表 2. 収集した例文とオノマトペの数

	内容	A 総例文数	A 異なり語	B 総例文数	B 異なり語数
①介護	介護	3851	140	498	127
②ケンコミ	健康食品・医療・日用品	28250	163	7614	284
③アマゾン	美容・健康関連／日用品	1870	86	491	102
④楽天	美容関連・化粧品	213656	169	56250	264
⑤コスメ	化粧品	175410	172	64921	260

表 3-A 184 語の頻度上位 10 種

	①介護		②ケンコミ		③アマゾン		④楽天		⑤コスメ	
順	語	頻度	語	頻度	語	頻度	語	頻度	語	頻度
1	しっかり	549	しっかり	4565	しっとり	320	しっとり	31693	しっとり	20778
2	きちんと	312	すっきり	2732	さっぱり	184	さらさら	17621	さらさら	16910
3	はっきり	304	しっとり	2057	たっぷり	117	しっかり	16906	しっかり	14151
4	ちゃんと	277	たっぷり	1893	しっかり	108	びっくり	12235	きらきら	10118
5	ゆっくり	274	さっぱり	1739	すっきり	103	さっぱり	11414	びっくり	7269
6	いらいら	207	びったり	1305	つるつる	96	たっぷり	10571	さっぱり	7092
7	どンドン	189	さらさら	1029	さらさら	72	つるつる	9905	ちゃんと	6894
8	びっくり	146	びっくり	981	びっくり	69	すっきり	9062	びったり	6246
9	ほっと	113	さくさく	919	すべすべ	68	びったり	6192	すっきり	6218
10	すっきり	72	ちゃんと	823	かさかさ	67	ころころ	5759	たっぷり	6036

表 3-B オノマトペ候補の頻度上位 10 種

	①介護 B		②ケンコミ B		③アマゾン B		④楽天 B		⑤コスメ B	
順	語	頻度	語	頻度	語	頻	語	頻度	語	頻度
1	ゆったり	25	ほんのり	845	さらっと	63	さらっと	7814	さらっと	4101
2	ぼちぼち	21	さらっと	695	ぶるぶる	20	ほんのり	2804	ふんわり	3676
3	くたくた	17	ふんわり	684	べとべと	19	ばさばさ	2110	ぎらぎら	2736
4	すんなり	17	すーっと	350	ほんのり	18	すーっ	1889	ほんのり	2538
5	やんわり	15	ひんやり	194	とろっと	15	ぷるぷる	1838	ばさばさ	2532
6	さらっと	14	ふわっと	158	ぼろぼろ	13	ふんわり	1837	ふわっと	1819
7	ばんばん	14	さくっと	158	すーっ	13	ぼろぼろ	1737	きしきし	1793
8	きちっと	13	じんわり	151	ぺたぺた	11	きしきし	1546	するする	1713
9	ひやひや	13	びりっと	147	もこもこ	11	するする	1089	すーっ	1568
10	べったり	13	つぶつぶ	134	するする	10	ふわっと	974	ぼろぼろ	1456

4. 分析

本節では、収集した事例のオノマトペを、言い換えた場合の難易度を基準に分類する。学習の内容を検討するために、言い換え表現の有無や難易度も重要な観点の一つであると考えからである。さらに、オノマトペと言い換え表現を比較することによって、言い換えた場合、何が変化するかを考察する。言い換え表現は、オノマトペ辞典を参考とし、2名の日本語母語話者にも意見を求めた。言い換える際の難易度に応じて2つのレ

ベルに分類した。レベル1は、1語で容易に言い換えられる語、レベル2は、複数の語で複雑な言い換えが必要となる語である。また、各レベルの下位項目として、表現対象別に①「身体感覚」、②「感情」、③「動作の様態」の3つを設けた。以下、レベル順に例を挙げる。

4.1 レベル1：言い換えが容易

①身体感覚：ぽかぽか・ひんやり・びしょびしょ
これらの語は、「ぽかぽか温かい」、「ひんやり冷たい」などのように、類義語と共起する例が多

く見られた。オノマトペはそれらの類義語の意味も内包している。例えば、「ぽかぽか」は「温かい」ことを含意しつつ、感覚的な表現であるという点で、「温かい」より身体性が高いと思われる。そのため、「快」「不快」と直接的に結びつくが、以下の(1a)～(3b)の例は、快・不快のどちらを含意するかが文脈によって異なる。例文に続く()は言換え表現、[]は快・不快を示す。

- (1a)マッサージしていたら、ポカポカ温かくって凄く気持ちいい感じでした。(温かい) [快]
(1b)身体はポカポカしてるから顔も真っ赤になってるのに寒い寒いです。(温かい) [不快]
(2a)喉がちょっと痛いかな、というときにひんやりと冷やしてくれて気持ちよいです。(冷たい) [快]
(2b)冬は特にバスマットでひんやり冷たい思いをするので重宝しています。(冷たい) [不快]
(3a)部屋から廊下からトイレのスリッパまでビショビショ。(濡れた) [不快]
(3b)びしょびしょになるくらい精製水をかけて、化粧水はなし。(濡れる) [やや快]

以上のオノマトペの言い換え表現は、「温かい」など、学習者にとっても基礎的な語彙であるため、これらのオノマトペは使用語彙として習得の必要性は高いとは言えない。しかし、身体性が高いため、言い換えた場合「快・不快」の含意が損なわれる可能性がある。

②感情：むっ・がっかり・ぐさっ

これらは、同じ品詞、用法で言い換え表現が存在する語が多く、①のように共起する例は見られなかった。また、プラスの感情か、マイナスの感情かは、文脈に左右されることなく一定である。

- (4)相手はムッとして次の日挨拶をしても、嫌な顔をされます。(不機嫌)
(5)がっかりしながらも納得されて寝てくれた。(落胆)
(6)最初こそ私もグサッときていましたが(傷つく)

言い換え表現と比較すると、オノマトペは、動作性や音象徴が感じられるため、人の内部から生じる感情により密着した表現である。さらにマイナスの感情表現については、和らげの効果も考えられる。感情表現は、マイナスを意味する語の方が種類と語形のバリエーションが多い。従って、プラスの感情と比べてより切実であるマイナス感情を自身の感情に近い形で表現することと、否定的な印象を和らげる効果の両方が可能になる。

③動作の様態：さっさ・さっ・ぐっ・ぎゅっ

類義の副詞で言い換えが可能であるが、文脈によって適切な言い換え表現が異なる。

- (7a)半数以上の人は食事が終わるとさっさと居

室に帰ります(すぐ)

- (7b)さっさと片付けて早く帰りたいのでしょうか(手早く)

(8a)ハンドルも持ちやすいしサッとどこにでもひっかけられるんです。(すぐ)

- (8b)ベットサイドに立ってもらって、オムツの中のパッドをサッと替えています。(手早く)

これらのオノマトペは、「短時間で」動作することが共通点であり、言い換え表現と比べると、時間性との結び付きが感じられ、語の形が短く、促音を伴うことも、時間の短さを想起させる。語そのものに、時間の感覚が反映されるのは、オノマトペの特徴の一つである。学習上では、この時間性に着目し、「短時間で何かを行うこと」を意味の核として捉えることもできる。以下の例は、時間性と共に、身体性も感じられる表現である。

- (9)もうこれ以上吸わなくなったと思ったら、片手でギュッと握るだけ。(強く)

以上の(7a)から(8b)の例では、言い換えた場合、時間性との関係が損なわれ、(9)の例は力と関連する意味であるため、時間性に加え、身体性との関係が損なわれる可能性がある。これまで見てきたレベル1に含まれるオノマトペは、言い換え表現が容易であるという点では、学習の優先度は低くなる。しかし、言い換えた場合に「快・不快」「身体との関係性」など、抜け落ちるものもあり、特に「共感」や「人の心に寄り添う」ことが求められる介護現場で働く学習者にとっての重要性は検討する必要があるだろう。

4.2 レベル2：言い換えが困難

①身体感覚：べたべた・つつる・いがいが

これらは、切実な感覚である痛みや皮膚への刺激、皮膚の状態を表現しており、言い換えることが困難である。レベル1の①で取り上げた「ぽかぽか」等と比較すると、より身体の内側から生じる感覚であるために、身体性が高く、快不快との関係も強いと考えられる。

- (10)塗ると鼻の中がべたべたして気持ち悪くなるし、鼻水も止まりませんでした(粘り気がありくっつく)
(11)一口飲んで下さったら、「やっぱり〇〇さんは水分を飲んでいらっしゃるから、頬がツルツルですね」と言って頬をさすると、もう一口飲んでくれます。(凸凹や傷がなく滑らか)
(12)カゼをひいてのどがイガイガしたときにこのアメ舐めます。(とげが刺さったような不快感)

以上のオノマトペは、言い換えが困難であり、医療・介護に従事する日本語学習者には必要な表現だが、快・不快が明確であるため、学習の初期段階であっても、相手が「不調を訴えているのか」

という判断は可能だろう。

②感情：いらいら・ひやひや・はらはら

レベル1の②で述べた「むっ」「がっかり」など同様に、プラスか、マイナスかについては、文脈に左右されることなく一定である。レベル1と比較すると、喜怒哀楽のどの感情に属するかが明確ではなく、複数の感情がまじりあっていることも、言い換えが複雑になる理由の一つであろう。また、動作性がレベル1より弱いと感じられる。

(13)わかっていても、ついイライラしてしまいます。(思う通りに行かず焦ったり腹が立ったり)

(14)いつかストーブを倒すんじゃないかとハラハラしてました。(気をもみ、危ぶむ)

(15)事故の多い浴場なのに、みててヒヤヒヤすることがあります。(危険を予測して恐怖を感じる)

③動作の様態：じっくり・ぺらぺら

レベル1の③で述べた「さっ」「ぐっ」などと同様に、時間性に関わるが、以下の例は、時間が長いことを示唆する。しかし、レベル1が「短時間」を意味の核として捉えることができるのとは異なり、「じっくり」「ぺらぺら」について「長時間」を同様に捉えることは、学習の上でも問題があるだろう。また、言い換え表現と比べると、(16)は「満足」、(17)は「迷惑」という暗示を持つ。

(16)じっくり話を聞くことは必要と思います。(時間をかけて十分に) [満足]

(17)さんざんぺらぺら話しかけてきて(軽薄な調子で際限もなく) [迷惑]

ここまでに見てきた言い換えのレベル別の例を手掛かりとして、なぜこれらの文脈で、オノマトペが使われているのかを考えてみると、理由は大きくふたつの側面に分けられる。ひとつは、言語の経済的な側面で、①言い換え表現がない、②言い換えると長く複雑になる。もうひとつは、言語行為的な側面で、①快・不快の程度、②身体性との関係、③時間性との関係、である。整理の例として表に示すと以下の表4のようになる。太枠で示された部分が、言語行為的な側面で、特徴や階層性が表れる部分である。

6. まとめ

自動収集でウェブ上のオノマトペ表現を収集し、言い換え表現を基準として分類した。

目的別日本語教育においては、分野に応じた実際の運用を目指すために、オノマトペ表現のオノマトペの言い換え表現の有無や、難易度を考慮するだけでなく、言語行為的な側面をどのように取り入れるかを検討する必要がある。本研究では、オノマトペと言い換え表現との比較することによって、なぜその文脈でオノマトペ表現が選択さ

れているのかを考察した。この考察の結果は、日本語教育において、学習者に対する類義表現の使い分けの説明方法や、言語行為的な側面を学習へ取り入れることが可能か、あるいは必要か、などの議論へとつながって行く。以下の表4は、目的別日本語教育への応用を視野に入れ、多くの事例を観察することによって作られた、第一次的なものである。今後、精査していきたい。

表4. 言い換えレベル別の言語行為的な側面

	言換	快	不快	身体	時間
ぽかぽか (温かい)	L1	○	○	外	△
ひんやり (冷たい)	L1	○	○	外	△
べたべた (・・・)	L3	×	◎	内	△
いがいが (・・・)	L3	×	◎	内	△
がっくり (落胆)	L1	—	○	○	△
ぐさっ (傷つく)	L1	—	○	○	△
いらいら (・・・)	L3	—	○	△	△
はらはら (・・・)	L3	—	○	△	△
さっさ (早く)	L1	△	△	—	○
ぎゅっ (強く)	L1	△	△	○	○
じっくり (・・・)	L3	△	△	—	△
ぺらぺら (・・・)	L3	△	△	—	△

参考文献

- 飛田良文・浅田秀子 (2002) 『現代擬音語・擬態語用法辞典』 東京堂出版
- 石井容子 (2010) 「介護福祉士候補者着任前日本語研修のための専門語彙教材の開発」 日本 2010 年度日本語教育学会春季大会 予稿集 pp.357-358
- 北中佑樹, 竹内和広 (2010) 「印象調査アンケートのためのオノマトペ表現による評価尺度の拡張」 信学技報, TL2010-36, pp.1-6, 2010.
- 国際交流基金・日本国際教育協会編(2004) 『日本語能力試験 出題基準【改訂版】』 凡入者
- 三上京子 (2007) 「日本語教材とオノマトペ」 『日本語学』 26 (7), pp.36-46 明治書院
- 奥村敦史, 齋藤豪, 奥村学(2003) 「Web 上のテキストコーパスを利用したオノマトペ概念辞書の自動構築」 情報処理学会 自然言語処理研究会 2003-NL-154-10, pp.63-70
- 玉村文郎 (1989) 「日本語の音象徴語の特徴とその教育」 『日本語教育』 68, pp1-12 日本語教育学会
- 西村由美 (2009) 「対話コーパスとアンケート調査から見た日本語母語話者と学習者のオノマトペ使用状況」 第 11 回日本語教育学会研究集会予稿集 pp.23-30

謝辞 データの収集は北中佑樹が行った。ここに記して謝意を示す。この研究の一部は科研費 (課題番号 21500113) の支援を受けた研究の成果である。

連絡先 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155 関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科 西村由美